

第4学年 社会科学習指導案

奈良学園小学校 山川 丈二

1. 単元名 わたしたちの奈良県 「奈良県の特徴ある地いきの人々の暮らし」

2. 単元の目標

- (1) 体験や聞き取り、資料を通して、和紙作りに関わる人々の努力や工夫、願いなど調べることができる。
吉野町の特徴や和紙作りに関わる人々の努力や工夫、願いによって、伝統が守り続けられてきたことを理解している。 (知識・技能)
- (2) 吉野町で和紙作りが守り伝えられていることや和紙作りのこれからについて自分の考えをもち、それらを適切に表現できる。 (思考・判断・表現)
- (3) 吉野町の特徴や和紙作りに関心をもち、吉野町の和紙作りに関わる人々の努力や工夫、願いについて積極的に調べ、伝統を守り継承するために自分には何ができるか考えることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(教材観)

子どもたちは、これまでに、地域の浄水場やゴミ処理場、スーパーマーケットについて学習し、施設見学を通して、働く人の願いや工夫を考え、暮らしと安全や健康について学習してきた。また、1年時には、宿泊学習で奈良市の見学や墨づくり体験を、2年時には吉野の和紙作りと箸づくりを体験、4年時には赤膚焼の体験や藍染めの体験を予定するなど、奈良の伝統文化に触れる機会を多くもってきた。

今回、本校の所在地である、奈良という地域に愛着を感じさせ、心と体と頭がはたらく学習を通して、1300年続いてきた手漉き和紙作りに焦点をあてた授業を構成した。本単元では、伝統守り継承してきた人の思いや営みを学び、自分たちも伝統を守り継承していく一員として、このままでは途絶える可能性のある伝統文化を未来に繋いで行こうとする行動の変容を促すことをねらいとする。2年時に宿泊で行った吉野町の和紙作りを教材化して授業を構成した。

本単元は、学習指導要領の内容(6)のウ「産業や地形条件から見て県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活」を扱う。本時は、単元「わたしたちの奈良県」のうち小単元「(1)奈良県の様子」に続く「(2)特色ある地域の様子」の導入である。小単元(1)では、自分たちが生活する奈良県の地理的特色、特色ある産業や人々の生活などについて具体的な資料をもとに調べ、それぞれの事象を関連付けて考え、奈良県の特徴を捉えていくことがねらいとなる。奈良県は、近畿地方の他府県とは違い海がなく周りを山に囲まれているという特徴がある。また、北と南でも大きく地形が異なり北は奈良盆地や大和高原、南は吉野山地や紀伊山地がそびえ、気温や降水量においても差異がみられる。さらに、大阪や京都のベッドタウンとしてニュータウンができており、交通網にも特徴がみられる。産業においては、イチゴづくりや大和高原の茶づくりや吉野の木材、大和郡山の金魚、葛城市の山麓を利用した酪農など自然環境を利用した産業の特色にも気付かせる活動を行うことができる。

小単元(2)では、奈良県の特徴ある地域の様子として、自然環境を生かした吉野町の和紙作りを教材として取り上げる。奈良県吉野町国栖の和紙作りは、地域の水とその気候を生かし、1300年もの間、守り伝えられてきた伝統的な産業である。

明治中期までは、国栖地区を中心に和紙の原料である楮が栽培され、国栖村の約半数にあたる300戸で和紙作りを行っていたが、第2次世界大戦を境に需要が減り、洋紙におされ衰退してきた。吉野には文化財指定を受けた紙が3種類あり、宇陀紙、美栖紙、吉野紙である。しかし、後継者問題に直面しており、長い歴史と職人の思いに支えられた伝統を引き継ぎ和紙作りを行っているのは6戸のみである。本来の用途である文化財保護だけでは、生活が出来ない現状の中、海外での販売や、新しい商品開発などさまざまなアイデアと取り組みで活路を見いだそうとしている。しかし、後継ぎが2戸しかいないことが大きな課題としてあげられている。

また、「観光協会」などが中心となり、地元の中学生に参加を呼びかけ、国栖の里灯り展などの行事を行っている。和紙の魅力を伝え、行事や体験講座、後継者育成など職人を支える協働の取り組みが吉野にはよくみられる。そのような、つながりの強さや伝統を守るために取り組んでいる人々の姿を子どもたちに感じ取ってもらいたい。

(児童観)

社会科の授業において3年時より「調べることが楽しい、追究することが楽しい」と感じられる児童を育てることを大切にしてきた。グループごとに調べ学習を行い、調べてきたことをまとめ、発表する中で、子どもたちがお互いに学びをつなぎ合わせ、さらに深めていくことができた。だが、自分の考えをもてる児童がいる一方で、ただ単に、友だちの意見に流される児童もいる。正解か不正解かではなく、自分なりの考えをもつことが大切であることを理解させていきたい。そして、友だちの考えを聞きあう中で、自分はどう思うのかを表現させていきたい。

また、もの、人、ことを追究する中で、社会的事象の本質が見抜ける児童を育てていきたい。

(指導観)

本小単元を進めていく際には、小単元の導入である「つかむ」過程で、二つの手立てをとる、一つ目は課題に必然性をもたせるために、事前学習として「身近な和紙調べ」をさせる。二つ目は、伝統の意味を貫いた1枚のポスターに出会わせる。そのポスターに描かれている「伝統の技は、つづけて、つたえて、つなげなありません。」という職人の言葉を手がかりに「和紙作りが1300年も続いた秘密を探ろう」という学習課題を設定する。2時間目では、和紙と洋紙を比べる活動を取り入れる。実際に和紙に触れたり、やぶいてみたりすることで普段使っている洋紙との違いに気づかせ、どのように作られているのだろう、和紙の強さの秘密は何だろうという疑問をもたせる。和紙作りについて、「歴史」「製造」「生活」「流通」「自然条件」の5項目で課題を整理し、調べる過程への意欲を高めていく。

「調べる」過程では、3、4時間目を使い、インターネットや図書、パンフレットなどを活用しグループごとに追究していく。5、6時間目では、吉野町にある手漉き和紙の職人への聞き取り調査をフェイスタイムで行う。職人と実際にふれあう活動は、子どもたちが楽しみにしている活動であり、学習内容に対してより興味・関心を高める活動であると考え。職人への聞き取り調査の際には、和紙作りについてだけではなく、知る人ぞ知る秘密や、和紙の歴史や自然環境、努力や工夫、願いなども質問できるように、あらかじめ調査計画を立てておくようにする。調査後には、友だちと感想を交流したり、調査したことを絵や言葉で新聞に表したりして再構成することで、調査体験を学習経験へと高めていく。調査の中で、和紙作りの直面する問題について気付かせる。特に、後継者問題や需要の減少といった問題の解決に向けた町や職人の取り組みを具体的に調べさせることで、伝統の保護・継承の難しさについて考えさせたい。

「ふかめる・ひろげる」過程では、これまで調べてきた職人の伝統の和紙を守っていこうという思いに沿った活動について整理し、「手漉き和紙の魅力ランキングをつくらう」の問いに対して、自分の考えをまとめさせる。全体での話し合いを通して、伝統を守る意味や生活していく厳しさなどを自分事としてとらえさせたい。さらに、ゲストティーチャーとして、「職人」と「観光協会」の方にきていただき、職人の方には後継ぎをした思いや、伝統を守る意味、観光協会の方には、職人を支えるつながりの立場で思いを語ってもらう。その後、ポスターの言葉に立ち返り、学習課題である、「1300年も続いた和紙作りの秘密」について迫っていきたい。この学習を通して、伝統を守るためには、「思い」「工夫」「支え」が必要である事、一つの伝統が消えると、同時に他の伝統も消えていくことに気づかせ、自分たちの出来ることは何かを考えさせたい。例えば、手漉き和紙の魅力を身近な家族や下級生に発信したり、手漉き和紙を使って作品作りを行い、手漉き和紙を活用していったりすることも行動化の一つと考える。自分たちにできることは大きなことではないかもしれないが、この学習で学んだ「まずは現実を知ること」「つながりをとぎれさせないこと」この2つのことを主眼に起きながら行動を模索していければと考える。

12月に福西さんご指導の下実際に手漉き和紙作りを体験し、伝統を守っていく人の生き方に触れさせるとともに、出来上がった手漉き和紙に夢や願い、感謝の気持ちを習字で書いて、3月の修了式で保護者や地域の人に手漉き和紙の魅力とともに発信する活動も行動化のきっかけになると考える。

4. ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- 連携性・・・伝統を守り継承していくためには、直接関わる人だけが努力するのではなく、私たち一人一人が伝統を守るためにできることを考え努力していくことが必要であること。
- 有限性・・・伝統を受け継ぐ人がいないと伝統は途絶えるということ。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

- 批判的に考える力・・・便利な洋紙があるのに、なぜ、大変な苦勞をして手漉き和紙作りを続けていく必要があるのか考える。(伝統をなぜ守り継承していく必要があるのか。)
- コミュニケーションを行う力・・・和紙作りが1300年も続いてきた理由について、意見交流を通して、自分の考えを作り上げる。
- つながりを尊重する態度・・・伝統を守り継承するということは、時間的なつながりの部分と、職人をささえる横のつながりがあることに気付き、自分たちにも伝統を守り継承するためにできることを見つける。

・本学習で変容を促すESDの価値観

- 人権・文化を尊重する
 伝統を守り継承していく職人、それを受け継ぐ後継ぎがいて成り立っている伝統工芸継承について知り、手漉き和紙作りの魅力を理解し、自分も伝統を守っていく一員としてそれを広めたり、大切にしたりしていこうとする意識を育てる。
- 幸福感を大切に
 伝統工芸に愛着をもち、それらを支える人の思いに触れ、素晴らしさや自分たちが恩恵を受けていることを再認識するとともに、伝統工芸を守る職人の方へ感謝の気持ちを持つ。

・達成が期待させるSDGs

- 8 働きがいも経済成長も
- 12 つくる責任・つかう責任

5. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①手漉き和紙には、自然と調和を活かした技術や、伝統をつないでいこうとする人々の様々な願いが込められていることを理解している。 ②見学・調査したり本やインターネットなどの資料で調べたりして、模造紙などにまとめている。	①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、手漉き和紙の現状を捉え、関わる人々の願いや努力を考え、表現している。 ②伝統や文化を保護したり継承したりするために自分達が協力できることを考えたり選択・判断したりしたことを表現している。	①手漉き和紙作りが1300年も続いた理由について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、伝統や文化の保存や継承に関わって、自分達にできることなどを考えたり選択・判断したりしようとしている。

6. 単元の指導計画（全15時間）

次	時数	学習活動	教師の支援など	評価・備考
1	1	<p>○2年生の学習を想起する</p> <p>○事前学習の和紙調べについて交流する。</p> <p>○ポスターを見て、学習課題を立てる。</p> <p>☆学習課題Ⅰ <u>「和紙作りが1300年も続いた秘密を探ろう。」</u></p>	<p>・身近な生活には洋紙があふれていて和紙をほとんど目にすることがない事実から、学習問題をつかませる。</p> <p>・学習問題がたてられない児童には、2年生で行った紙すき体験や家庭での生活を想起させる。</p>	ウ①（主体的）
	2	<p>○吉野の和紙と洋紙の比較や和紙作り1300年続く歴史から、学習問題を立て学習計画を立てる。</p> <p>○宇陀紙と洋紙を比較する。 比較例 「触る やぶく 価格など」</p>	<p>・吉野の和紙と洋紙の比較する際の留意点を全員で確認する。</p> <p>・学習問題を解決するための計画を考えさせ、学習カードに表現させる。</p> <p>・調査をどのようにしていくか見通しをもたせる。</p>	ウ①（主体的）
2	3 4	<p>○図書教材や副読本、インターネット吉野町、のパフレットなどを活用して吉野の和紙の「歴史」「製造」「生活」「流通」「自然条件」などについて調べノートにまとめる。</p>	<p>・和紙の製造過程には、48の手間がかかることを理解させる。</p> <p>・吉野町で和紙作りが盛んになった理由や製品が全国各地に送られていることから、国内他地域との関わりについて理解させる。</p>	ア②（知・技）
	5 6	<p>○調べてわかったことを模造紙等にまとめ、クラス内で共有する。</p> <p>○和紙に対する理解を深める活動を通して、新たに生まれる疑問を整理し、職人への聞き取り計画を立てる。</p>	<p>・聞き取り調査に意欲的に取り組めるように、ワークシートに調査の視点をまとめさせる。</p> <p>調査の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和紙の原料 ・製造過程 ・職人の技術 ・苦労や工夫 ・昔と今の和紙作りの比較 	ア②（知・技） ウ①（主体的）

	<p>7 8</p>	<p>○手すき和紙職人の作業の様子や制作過程、それに伴う伝統的な技術、工夫や努力、観光協会の和紙作りの伝統を守る取り組みの様子について聞き取り調査をとおして調べ、まとめる。</p> <p>○後継者問題や需要の減少問題など和紙作りのかかえる課題について聞き取り、職人の技のすごさの部分と課題の部分の踏まえ、「手漉き和紙の魅力って何だろう」の問いに対して、自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>・スカイプ、映像、F a x , ビデオを活用して調査させる。</p> <p>手すき和紙職人の作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和紙の原料 ・製造過程 ・職人の技術 ・苦労や工夫 	<p>ア①（知・技） イ①（思判表）</p>
<p>3</p>	<p>9・ 10</p>	<p>○「手漉き和紙の魅力って何だろう？～手漉き和紙の魅力ランキングをつくらう～」</p> <p>○和紙職人と観光協会の方にゲストティーチャーとして来ていただき、手すき和紙職人の抱える問題点の解決に向けての取り組みを聞き取り、職人や観光協会のなどの工夫や努力について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和紙職人にゲストティーチャーとして来ていただき、伝統を守り伝えるための思い、工夫、支えの視点で話をしてもらう。 	<p>ア①（知・技） イ①（思判表） ウ①（主体的）</p>
	<p>11 ～15</p>	<p>○12月に手漉き和紙職人に来校していただき、本物の楮やトロロアオイなどを使い、100年先までもつ和紙を漉く。（手漉き和紙体験）</p> <p>○出来上がった手漉き和紙に夢や願い、感謝の気持ちを習字で書いて、3月の修了式で保護者や地域の人に手漉き和紙の魅力とともに発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手漉き和紙職人に来校いただき、実際に使う道具も持参いただく。 ・職人の苦労や工夫を学んだ後に、手漉き和紙体験をして感じた思いを伝えさせる。 	<p>イ②（思判表） ウ②（主体的）</p>